

## 調 査 結 果 の 概 要

### 1 総括

平成 20 年度の学校数は 2,107 校で、前年度より 13 校減少(幼稚園 7 園減、小学校 2 校減、高等学校 1 校増、専修学校 3 校減、各種学校 2 校減)している。

また、在学者数については 683,790 人で、前年度より 7,682 人減少している。

表 1 学校数及び在学者数(平成 20 年度)

(単位:校、園、人)

種別	学校数	在学者数		
		総数	男	女
幼稚園	501	65,159	33,103	32,056
小学校	776	285,231	146,082	139,149
中学校	379	143,925	73,054	70,871
高等学校	172	134,734	67,559	67,175
中等教育学校	1	545	235	310
特別支援学校	42	4,526	2,942	1,584
専修学校	185	43,893	21,026	22,867
各種学校	51	5,777	3,231	2,546
総数	2,107	683,790	347,232	336,558
前年度総数	2,120	691,472	351,609	339,863
対前年度増減	13	7,682	4,377	3,305

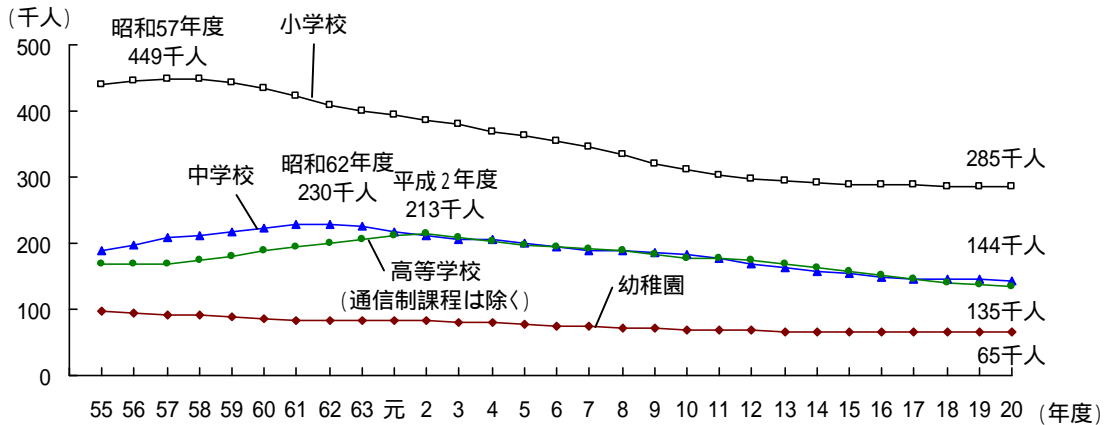
注)高等学校には通信制課程を含まない。

園児、児童及び生徒数の推移を年度別にみると、総じて減少傾向にある。

幼稚園園児数は、近年、微減傾向にあり、平成 20 年度は 65 千人になっている。小学校児童数は、昭和 57 年度(449 千人)を境に 26 年連続して減少し、平成 20 年度には 285 千人になっている。

また、中学校生徒数は、昭和 62 年度(230 千人)を境に 21 年連続して減少し、平成 20 年度には 144 千人になっている。さらに、高等学校生徒数も同様に、平成 2 年度(213 千人)を境に 18 年連続して減少し、平成 20 年度には、135 千人になっている。

図 1 年度別園児、児童及び生徒数の推移



## 2 幼稚園

### (1) 園数

幼稚園数は501園(国立1園、公立64園、私立436園)で、前年度より7園減少(公立7園減、国立及び私立は前年度と同数。)している。

表2 幼稚園の設置者別園数の推移

(単位:園)

区分	計	国立	公立	私立
平成10年度	539	1	79	459
15	520	1	73	446
16	513	1	71	441
17	515	1	71	443
18	509	1	71	437
19	508	1	71	436
20	501	1	64	436

### (2) 園児数

園児数は65,159人(男子33,103人、女子32,056人)で、前年度より733人減少している。

年齢別では、3歳児17,489人、4歳児23,577人、5歳児24,093人である。

本務教員1人当たりの園児数は14.2人で、前年度より0.2人減少している。

### (3) 教員数

教員数(本務者)は4,589人で、前年度より9人増加している。

表3 幼稚園の年齢別園児数及び教員数の推移

(単位:人)

区分	園児数			3歳	4歳	5歳	本務教員数	本務教員1人当たり園児数
	計	男	女					
平成10年度	70,075	35,604	34,471	15,022	26,895	28,158	4,156	16.9
15	66,563	33,722	32,841	15,580	25,132	25,851	4,320	15.4
16	65,877	33,609	32,268	15,959	24,424	25,494	4,363	15.1
17	65,690	33,413	32,277	16,374	24,299	25,017	4,417	14.9
18	65,937	33,613	32,324	16,761	24,424	24,752	4,483	14.7
19	65,892	33,486	32,406	17,283	23,761	24,848	4,580	14.4
20	65,159	33,103	32,056	17,489	23,577	24,093	4,589	14.2

### 3 小学校

#### (1) 学校数

学校数は776校(国立3校、公立766校、私立7校)で、前年度より2校減少(公立2校減、国立及び私立は前年度と同数。)している。

表4 小学校の設置者別学校数の推移

(単位:校)

区 分	計	国立	公立	私立
平成10年度	795	3	789	3
15	788	3	781	4
16	786	3	777	6
17	783	3	774	6
18	781	3	771	7
19	778	3	768	7
20	776	3	766	7

#### (2) 学級数

学級数は10,458学級で、前年度より150学級増加している。

#### (3) 児童数

児童数は285,231人(男子146,082人、女子139,149人)で、前年度より208人減少している。

1学級当たりの児童数は27.3人で、前年度より0.4人減少している。

本務教員1人当たりの児童数は18.3人で、前年度より0.1人減少している。

#### (4) 教員数

教員数(本務者)は15,548人で、前年度より66人増加している。

表5 小学校の学年別児童数、学級数及び教員数の推移

(単位:人、学級)

区 分	児童数 計	児童数		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
		男	女				
平成10年度	311,914	159,421	152,493	48,983	49,135	50,050	53,007
15	290,074	147,915	142,159	47,766	47,258	49,168	47,681
16	288,579	147,333	141,246	47,752	47,778	47,332	49,166
17	287,775	146,741	141,034	47,625	47,839	47,847	47,398
18	287,422	146,785	140,637	46,901	47,726	47,931	47,991
19	285,439	146,172	139,267	46,999	46,903	47,844	48,036
20	285,231	146,082	139,149	47,205	46,984	46,935	47,887

つづき

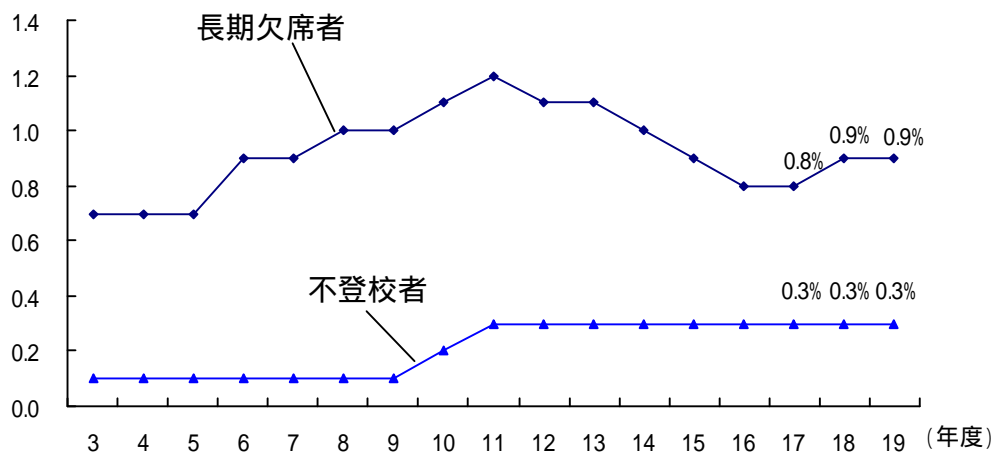
区 分	第5学年	第6学年	学級数	1学級当たり の児童数	本務教員数	本務教員1人 当たり児童数
平成10年度	53,376	57,363	10,362	30.1	15,327	20.4
15	48,671	49,530	9,929	29.2	15,181	19.1
16	47,741	48,810	10,034	28.8	15,324	18.8
17	49,229	47,837	10,167	28.3	15,463	18.6
18	47,518	49,355	10,274	28.0	15,462	18.6
19	48,071	47,586	10,308	27.7	15,482	18.4
20	48,083	48,137	10,457	27.3	15,548	18.3

(5) 長期欠席者数

平成19年度中に30日以上欠席した者(以下、「長期欠席者」という。)は2,577人で、前年度より78人増となり、3年連続して増加し、全児童数に占める比率は0.9%で前年度と同率である。

長期欠席者を理由別にみると、「病気」57.1%、「不登校」32.0%、「その他」10.9%となっている。長期欠席者のうち、不登校者数は824人と、前年度より30人増となり、全児童数に占める比率は0.3%で前年度と同率である。

図2 小学校全児童数に占める「長期欠席者」及び「不登校者」の比率の推移 (%)



注)平成3年度から30日以上欠席した者について、調査が始まった。

#### 4 中学校

##### (1) 学校数

学校数は379校(国立3校、公立349校、私立27校)で、前年度と同数(公立1増、私立1減、国立は前年度と同数)となっている。

表6 中学校の設置者別学校数の推移

(単位:校)

区分	計	国立	公立	私立
平成10年度	380	3	350	27
15	378	3	346	29
16	380	3	348	29
17	380	3	348	29
18	379	3	348	28
19	379	3	348	28
20	379	3	349	27

##### (2) 学級数

学級数は4,562学級で、前年度より30学級増加している。

##### (3) 生徒数

生徒数は143,925人(男子73,054人、女子70,871人)で、前年度より1,181人減少している。

1学級当たりの生徒数は31.6人で、前年度より0.4人減少している。

本務教員1人当たりの生徒数は15.2人で、前年度より0.1人減少している。

##### (4) 教員数

教員数(本務者)は9,460人で、前年度より2人増加している。

表7 中学校の学年別生徒数、学級数及び教員数の推移

(単位:人、学級)

区分	生徒数			第1学年	第2学年	第3学年
	計	男	女			
平成10年度	183,104	93,425	89,679	58,940	61,361	62,803
15	152,716	77,978	74,738	49,194	50,305	53,217
16	148,863	75,912	72,951	49,253	49,218	50,392
17	146,961	74,904	72,057	48,478	49,264	49,219
18	145,341	73,921	71,420	47,460	48,540	49,341
19	145,106	73,835	71,271	49,049	47,499	48,558
20	143,925	73,054	70,871	47,318	49,077	47,530

つづき

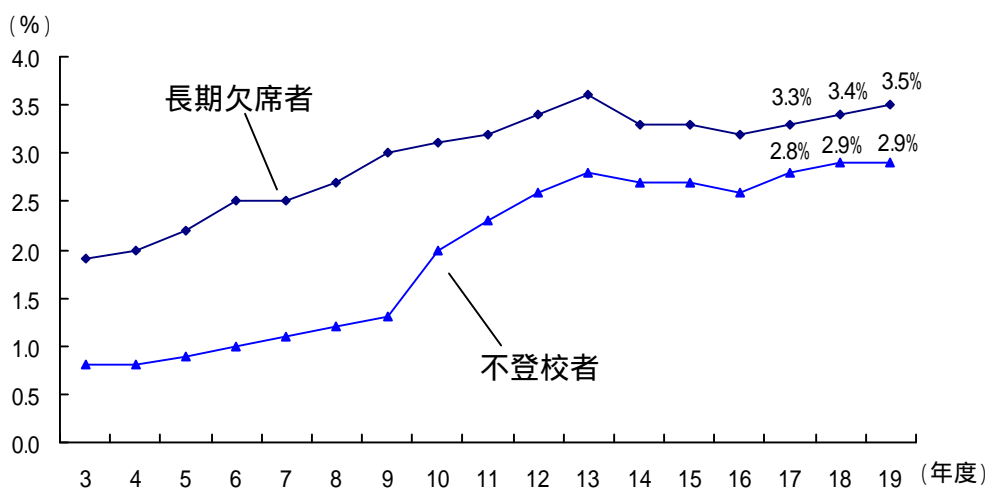
区分	学級数	1学級当たりの生徒数	本務教員数	本務教員1人当たり生徒数
平成10年度	5,240	34.9	10,305	17.8
15	4,561	33.5	9,467	16.1
16	4,497	33.1	9,392	15.8
17	4,477	32.8	9,383	15.7
18	4,492	32.4	9,357	15.5
19	4,532	32.0	9,458	15.3
20	4,561	31.6	9,460	15.2

(5) 長期欠席者数(中等教育学校(前期課程)を含む)

平成19年度中の長期欠席者は5,149人で、前年度より178人増となり、3年連続して増加し、全生徒数に占める比率は3.5%となっている。

長期欠席者を理由別にみると、「不登校」81.2%、「病気」13.8%、「経済的理由」0.1%、「その他」4.8%となっている。長期欠席者のうち、不登校者数は4,182人と、前年度より66人減少しているが、全生徒数に占める比率は2.9%と昨年と同率となっている。

図3 中学校全生徒数に占める「長期欠席者」及び「不登校者」の比率の推移



注)平成3年度から30日以上欠席した者について、調査が始まった。  
平成19年度から中等教育学校(前期課程)の長期欠席者を含んでいる。

5 高等学校

a 全日制課程(本科・専攻科)・定時制課程(本科のみ(本県においては専攻科なし))

(1) 学校数

学校数は172校(公立112校、私立60校)で、前年度より1校増加(公立1校増、私立は前年度と同数)している。

表8 高等学校の設置者別学校数の推移

(単位:校)

区分	計	公立		私立	
			うち定時制 課程設置校		うち定時制 課程設置校
平成10年度	186	124	31	62	-
15	189	128	27	61	-
16	189	128	27	61	-
17	181	120	27	61	-
18	182	120	27	62	-
19	171	111	26	60	-
20	172	112	26	60	-

(2) 生徒数

生徒数は134,734人(男子67,559人、女子67,175人)で、前年度より2,123人減少している。

本科の全日制課程の生徒数は130,279人で、前年度より2,013人減少している。

本科の定時制課程の生徒数は3,701人で、前年度より73人減少している。

全日制課程及び定時制課程の本科の生徒数(133,980人)を学科別にみると、普通科が最も多く93,709人で、本科の生徒数の69.9%を占め、次いで工業科12,440人(9.3%)、総合学科8,141人(6.1%)、商業科7,936人(5.9%)等となっている。

本務教員1人当たりの生徒数は15.6人で、前年度から0.2人減少している。

(3) 教員数

教員数(本務者)は8,617人で、前年度より40人減少している。

表9 高等学校の課程別生徒数及び教員数の推移

(単位:人)

区分	生徒数 計	生徒数		本科		専攻科
		男	女	全日制	定時制	全日制的み
平成10年度	177,739	88,970	88,769	173,971	3,135	633
15	156,107	78,819	77,288	151,706	3,700	701
16	151,228	76,271	74,957	146,732	3,822	674
17	145,203	73,093	72,110	140,516	3,943	744
18	140,835	70,855	69,980	136,164	3,881	790
19	136,857	68,675	68,182	132,292	3,774	791
20	134,734	67,559	67,175	130,279	3,701	754

つづき

区分	本務教員数	本務教員1人 あたり生徒数
平成10年度	10,064	17.7
15	9,432	16.6
16	9,301	16.3
17	9,009	16.1
18	8,915	15.8
19	8,657	15.8
20	8,617	15.6

専攻科

高等学校等を卒業した者等に対し、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的として設置された科。  
例：看護科、介護福祉科等  
(本県においては、全日制課程にのみ設置されている。)

表10 高等学校の学科別生徒数(全日制・定時制課程の本科)の推移

(単位:人)

区分	本科計	普通	工業	商業	家庭	農業	総合学科	看護
平成10年度	177,106	125,085	18,687	17,561	4,957	3,755	851	1,151
15	155,406	109,010	14,427	11,385	5,021	3,425	5,566	1,095
16	150,554	105,090	13,795	10,504	4,884	3,082	6,802	1,112
17	144,459	100,479	13,017	9,330	4,549	2,723	8,222	1,109
18	140,045	97,574	12,657	8,721	4,160	2,683	8,307	1,128
19	136,066	95,024	12,440	8,106	3,805	2,569	8,364	1,111
20	133,980	93,709	12,440	7,936	3,697	2,537	8,141	1,119

つづき

区分	水産	福祉	情報	その他
平成10年度	372	-	-	4,687
15	419	523	-	4,535
16	419	513	-	4,353
17	418	657	40	3,915
18	433	674	76	3,632
19	417	919	103	3,208
20	402	789	105	3,105

総合学科

自分の進路や興味・関心などに応じて科目が選択できるよう用意された学科(一般的に単位制)。  
福祉、情報学科  
平成15年度より調査区分に追加。  
その他の学科  
理数関係、外国語関係、音楽・美術関係など、他に含まれない学科。



b 通信制課程

(1) 学校数

学校数は4校(全日制課程との併置3校、定時制課程との併置1校)で、前年度より1校減少(全日制課程との併置1校減少)している。

(2) 生徒数

生徒数は4,656人(男子2,360人、女子2,296人)で、前年度より66人減少している。

(3) 教員数

教員数は116人(本務者60人、兼務者56人)で、前年度より5人減少している。

表 11 通信制課程を設置する学校数、生徒数及び教員数の推移

区 分	学校数			生徒数			教員数		
	計	公立	私立	計	男	女	計	本務者	兼務者
平成10年度	3	1	2	4,100	2,450	1,650	100	48	52
15	4	1	3	5,285	2,673	2,612	110	52	58
16	4	1	3	5,111	2,657	2,454	118	55	63
17	4	1	3	5,072	2,699	2,373	114	54	60
18	4	1	3	4,741	2,449	2,292	118	55	63
19	5	1	4	4,722	2,411	2,311	121	60	61
20	4	1	3	4,656	2,360	2,296	116	60	56

## 7 特別支援学校

### (1) 学校数

学校数は 42 校(公立 42 校)で、前年度から増減はない。

### (2) 在学者数

在学者数は 4,526 人(男子 2,942 人、女子 1,584 人)で、前年度より 140 人増加している。

### (3) 教員数

教員数(本務者)は 2,515 人で、前年度より 69 人増加している。

表 12 特別支援学校の学校数、在学者数及び教員数の推移

(単位:校、人)

区分	学校数	在学者数		幼稚部	小学部	中学部	高等部	本務 教員数	
		計	男						女
平成10年度	40	3,352	2,092	1,260	54	1,090	764	1,444	1,968
15	40	3,854	2,469	1,385	62	1,276	877	1,639	2,204
16	41	3,942	2,496	1,446	53	1,346	836	1,707	2,243
17	41	4,078	2,586	1,492	72	1,395	875	1,736	2,317
18	41	4,229	2,704	1,525	70	1,447	915	1,797	2,391
19	42	4,386	2,795	1,591	68	1,469	1,032	1,817	2,446
20	42	4,526	2,942	1,584	55	1,481	1,082	1,908	2,515

注)平成 18 年度以前は、盲学校・聾学校・養護学校分を合算したもの。

### 特別支援学校

学校教育法の一部改正に伴い、平成 19 年 4 月 1 日から盲学校、聾学校及び養護学校が障害種別を超えた特別支援学校に一本化された。特別支援学校は、「視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者(身体虚弱者を含む。)に対して、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けること(学校教育法第 72 条)」を目的とした学校である。

なお学校教育法の一部改正に伴う経過措置として、改正法の施行の際現に設置されている盲学校、聾学校及び養護学校は、改正法の施行の時に特別支援学校となるものとされた。

## 8 専修学校

### (1) 学校数

学校数は 185 校(国立1校、公立3校、私立 181 校)で、前年度より3校減少(私立 3校減、国立及び公立は前年度と同数。)している。

### (2) 生徒数

生徒数は 43,893 人(男子 21,026 人、女子 22,867 人)で、前年度より3,208 人減少している。

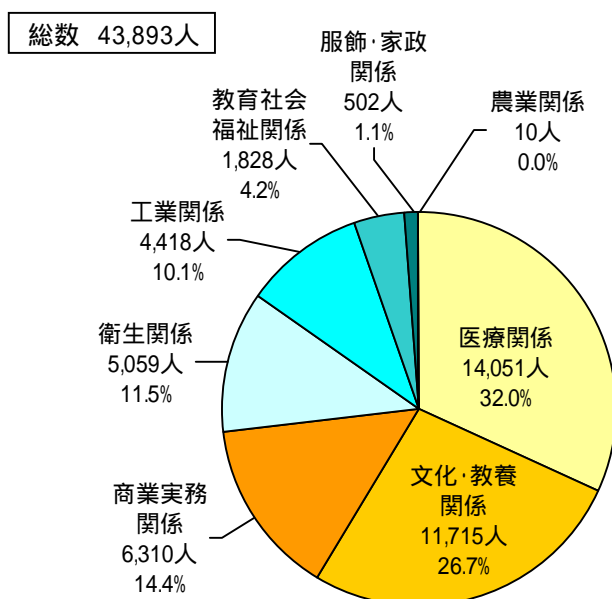
分野別に生徒数をみると、医療関係が最も多く、14,051 人(全体の 32.0%)、次いで、文化・教養関係 11,715 人(同 26.7%)、商業実務関係 6,310 人(同 14.4%)、衛生関係 5,059 人(同 11.5%)等となっている。

表 13 専修学校の設置者別学校数及び生徒数の推移

(単位:校、人)

区分	学校数			生徒数			
	計	国立	公立	私立	計	男	女
平成10年度	176	6	4	166	42,204	20,517	21,687
15	183	5	3	175	51,876	24,979	26,897
16	191	1	3	187	52,428	25,659	26,769
17	192	1	3	188	52,456	25,428	27,028
18	190	1	3	186	50,684	24,558	26,126
19	188	1	3	184	47,101	22,831	24,270
20	185	1	3	181	43,893	21,026	22,867

図 4 専修学校の分野別生徒数



### 専修学校

専修学校とは、学校教育法第1条以外の教育施設で、職業もしくは實際生活に必要な能力を育成し、または、教養の向上を図ることを目的とした学校教育法第124条から第133条に規定された学校である。

その設置基準の主なものとして、修業年限が1年以上であること、授業時間が年間800時間以上であること、教育を受ける者が常時40人以上いることがあるほか、教員の資格、施設及び設備などについても規定されている。

専修学校には、「高等課程」、「専門課程」及び「一般課程」の3つの課程があり、「高等課程」は、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて教育を行うもので、入学資格は、中学校卒業、あるいはこれと同等以上の学力を有する者とされている。

また、「専門課程」は、高等学校における教育の基礎の上に教育を行うもので、入学資格は、高等学校卒業、あるいはこれに準ずる者とされている。

さらに、「一般課程」は、高等課程及び専門課程以外の課程で、入学資格については、特に限定はない。

## 9 各種学校

### (1) 学校数

学校数は51校(公立2校、私立49校)で、前年度より2校減少(私立2校減、公立は前年度と同数)している。

### (2) 生徒数

生徒数は5,777人(男子3,231人、女子2,546人)で、前年度より469人減少している。

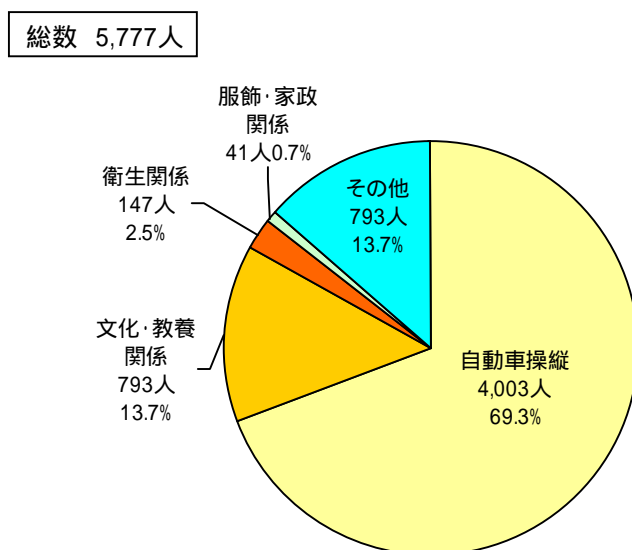
生徒数を分野別にみると、自動車操縦が最も多く4,003人(全体の69.3%)、次いで、文化・教養関係793人(同13.7%)、衛生関係147人(同2.5%)、服飾・家政関係41人(同0.7%)等となっている。

表14 各種学校の設置者別学校数及び生徒数の推移

(単位:校、人)

区分	学校数				生徒数		
	計	国立	公立	私立	計	男	女
平成10年度	76	-	3	73	8,767	4,992	3,775
15	59	-	3	56	8,983	5,187	3,796
16	59	-	2	57	8,481	4,867	3,614
17	56	-	2	54	7,263	4,223	3,040
18	53	-	2	51	6,199	3,555	2,644
19	53	-	2	51	6,246	3,633	2,613
20	51	-	2	49	5,777	3,231	2,546

図5 各種学校の分野別生徒数



#### 各種学校

各種学校とは、学校教育法第1条及び第124条に規定された学校及びその他の法律に規定がある学校以外で、学校教育に類する教育を行うことと学校教育法第134条に規定された学校である。

その基準の主なものには、修業年限1年以上(簡易な課程の場合は3か月以上1年未満可)であること、授業時間が年間680時間以上であること(1年未満の場合は、その修業期間に応じて減じる)、1授業の生徒数が40人以下であること、校舎は115.7m<sup>2</sup>を下回ることができないこと等がある。

### 10 中学校卒業後の状況(平成20年3月の卒業生)

#### (1) 卒業生数

平成20年3月の中学校卒業生数は48,571人(男子24,818人、女子23,753人)で、前年度より794人減少(男子289人減、女子505人減)している。

#### (2) 卒業生の進路

卒業生を進路別にみると、高等学校等進学者<sup>(\*)1</sup>46,963人、専修学校等入学者<sup>(\*)2</sup>440人(うち公共職業能力開発施設等入学者86人)、就職者は、就職進学者<sup>(\*)3</sup>及び就職入学者<sup>(\*)4</sup>の13人を含め330人、その他の者851人となっている。

\*1 高等学校等進学者

高等学校本科及び別科、中等教育学校後期課程本科及び別科、高等専門学校、特別支援学校高等部の本科及び別科に進学した者。

\*2 専修学校等入学者

専修学校高等課程進学者、専修学校一般課程等入学者(各種学校入学者を含む。)及び公共職業能力開発施設等入学者。

\* 3 就職進学者

就職しながら高等学校本科及び別科、高等専門学校、専修学校高等課程、特別支援学校高等部の本科及び別科に進学した者。

\* 4 就職入学者

就職しながら専修学校一般課程等(各種学校を含む。)及び公共職業能力開発施設等に入学した者。

(3) 高等学校等進学者

高等学校等進学者数は 46,963 人(男子 23,903 人、女子 23,060 人)で、前年度より 760 人減少(男子 273 人減、女子 487 人減)している。高等学校等進学率(全卒業者数のうち高等学校等進学者の占める比率)は 96.7%(男子 96.3%、女子 97.1%)で、前年度と同率になっている。

(4) 専修学校等入学者

専修学校等入学者数は 440 人(男子 232 人、女子 208 人)で、前年度より 10 人減少(男子 5 人減、女子 5 人減)している。

(5) 就職状況

就職者総数(就職進学者及び就職入学者を含む。)は 330 人(男子 228 人、女子 102 人)で、前年度より 9 人減少(男子 35 人減、女子 26 人増)している。

就職率(全卒業者数のうち就職者総数の占める比率)は 0.7%(男子 0.9%、女子 0.4%)で、前年度と同率になっている。

表 15 進路別卒業者数(中学校)の推移

(単位:人、%)

区分	卒業者数							
	A	高等学校等進学者		専修学校等入学者	うち公共職業能力開発施設等入学者	就職者総数	産業別	
		B	志願者				C	D
平成10年度	62,969	60,936	61,367	462	...	698	24	355
15	53,542	51,556	51,864	529	80	376	5	179
16	53,242	51,244	51,524	483	84	416	15	192
17	50,424	48,795	48,894	423	97	335	6	162
18	49,228	47,556	47,672	481	75	342	14	192
19	49,365	47,723	47,888	450	76	339	8	178
20	48,571	46,963	47,044	440	86	330	4	162

つづき

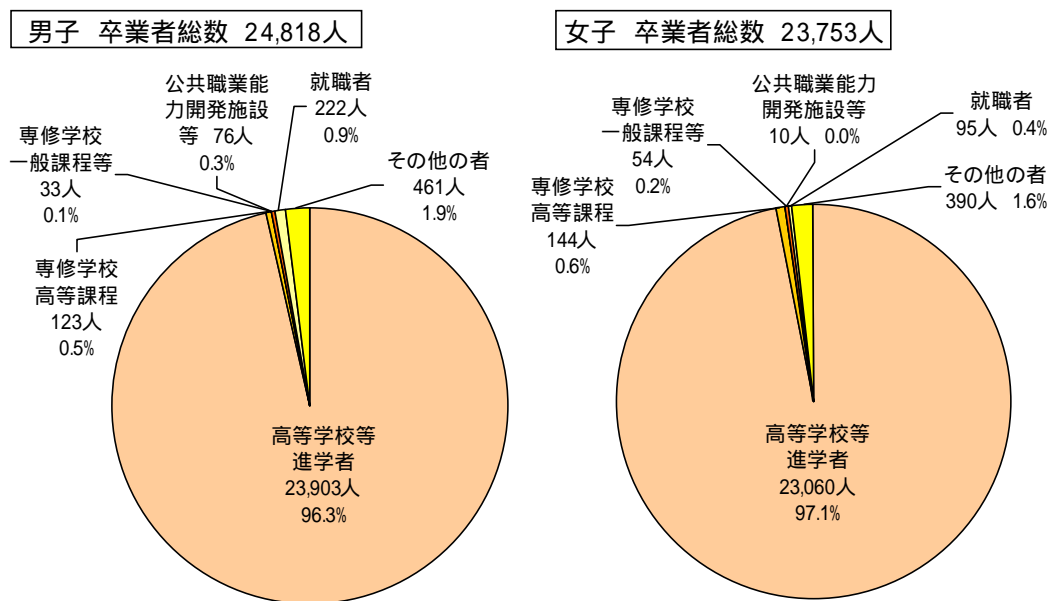
区分							高等学校等進学率 N	就職率 O
	産業別		就職先別		その他の者 L	就職進学者・就職入学者 M		
	3次産業 H	その他 I	県内 J	県外 K				
平成10年度	296	23	609	89	937	64	96.8	1.1
15	182	10	332	44	1,096	15	96.3	0.7
16	196	13	377	39	1,122	23	96.2	0.8
17	150	17	306	29	886	15	96.8	0.7
18	126	10	320	22	858	9	96.6	0.7
19	140	13	303	36	866	13	96.7	0.7
20	143	21	303	27	851	13	96.7	0.7

注) 区分計上年度の前年度末の状況。

A = B + C + E + L - M, E = F + G + H + I = J + K, N = B / A × 100, O = E / A × 100

M: B 及び C のうち就職している者

図6 男女別中学校卒業後の状況



注) 図6の就職者には、就職進学者及び就職入学者は含まない。

## 11 高等学校卒業後の状況(平成 20 年 3 月の卒業生)

### a 全日制課程・定時制課程

#### (1) 卒業生数

平成 20 年 3 月の高等学校(全日制課程・定時制課程)卒業生数は、43,755 人(男子 22,079 人、女子 21,676 人)で、前年度より 2,186 人減少(男子 1,168 人減、女子 1,018 人減)しており、平成 4 年 3 月の卒業生数 68,220 人を境に 16 年連続して減少している。

#### (2) 卒業生の進路

卒業生を進路別にみると、大学等進学者<sup>( \* 5 )</sup>22,608 人、専修学校等入学者<sup>( \* 6 )</sup>10,365 人(うち公共職業能力開発施設等入学者 174 人)、就職者は、就職進学者<sup>( \* 7 )</sup>及び就職入学者<sup>( \* 8 )</sup>の 25 人を含め 8,270 人、一時的な仕事に就いた者 511 人、その他の者 2,026 人となっている。

卒業生の進路をバブル経済崩壊後の平成 4 年度以降でみると、大学等進学率は年々増加した後、平成 12 年度を境に減少する傾向にあったが、平成 16 年度から増加に転じ、平成 20 年度は前年度より 1.2 ポイント上昇している。

一方、専修学校等入学率は、年々減少した後、平成 10 年度を境におおむね増加する傾向にあったが、平成 18 年度から減少に転じ、平成 20 年度は前年度より 0.3 ポイント低下している。

また、就職率は、年々減少する傾向にあったものの、平成 17 年度から増加に転じ、平成 20 年度は前年度より 0.3 ポイント上昇している。

#### \* 5 大学等進学者

大学・短期大学の本科・別科及び通信教育、放送大学、高等学校専攻科及び特別支援学校高等部専攻科に進学した者。

#### \* 6 専修学校等入学者

専修学校専門課程進学者、専修学校一般課程等入学者(各種学校入学者を含む。)及び公共職業能力開発施設等入学者。

#### \* 7 就職進学者

就職しながら大学・短期大学の本科・別科及び通信教育、専修学校専門課程、高等学校専攻科、特別支援学校高等部専攻科に進学した者。

#### \* 8 就職入学者

就職しながら専修学校一般課程等(各種学校を含む。)及び公共職業能力開発施設等に入学した者。



表 16 進路別卒業生数(高等学校全日制・定時制課程)の推移

(単位:人、%)

区分	卒業生数 A	大学等進学者		専修学校 等入学者 C	うち公共職業 能力開発施設 等入学者 D	就職者 総数 E	就職先別	
		B	志願者				F	G
平成10年度	59,525	26,056	33,066	15,598	...	13,183	10,965	2,218
15	52,946	22,963	29,656	15,584	239	8,875	7,512	1,363
16	50,894	22,334	27,718	14,773	203	8,367	6,907	1,460
17	50,208	22,681	27,435	14,659	239	8,642	6,970	1,672
18	46,565	22,468	26,305	12,477	202	8,449	6,812	1,637
19	45,941	23,197	26,824	11,037	193	8,559	6,784	1,775
20	43,755	22,608	26,137	10,365	174	8,270	6,500	1,770

つづき

区分	一時的な 仕事に 就いた者	その他 の者	就職進学者・ 就職入学者	大学等 進学率	就職率
	H				
平成10年度	...	5,021	333	43.8	22.1
15	...	5,603	79	43.4	16.8
16	1,236	4,256	72	43.9	16.4
17	824	3,464	62	45.2	17.2
18	729	2,482	40	48.3	18.1
19	813	2,372	37	50.5	18.6
20	511	2,026	25	51.7	18.9

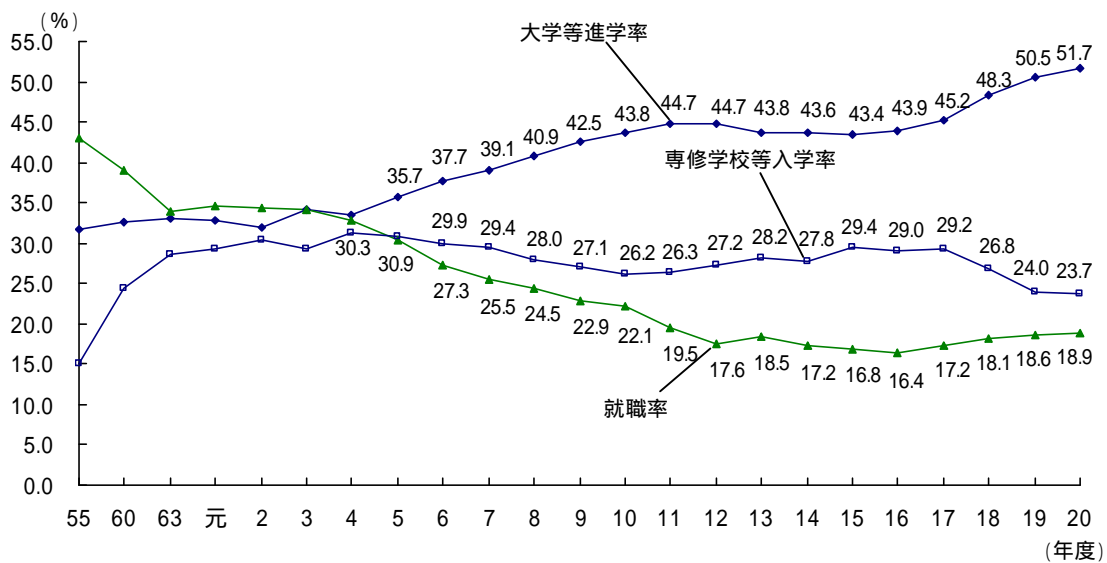
注) 区分計上年度の前年度末の状況。

「一時的な仕事に就いた者」は、平成 16 年度調査から追加され、それ以前は「その他の者」に含む。

A = B + C + E + H + I - J、E = F + G、K = B / A × 100、L = E / A × 100

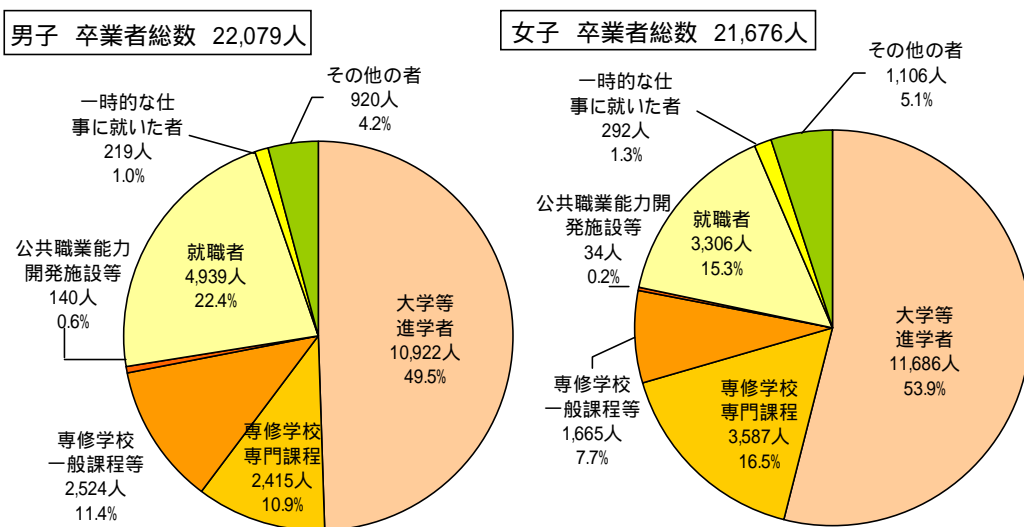
J: B 及び C のうち就職している者

図 7 高等学校卒業後の就職率等の推移



注) 年度は調査年度を表し、比率は調査年度の前年度末の状況。

図8 男女別高等学校卒業後の状況



注) 図8の就職者には、就職進学者及び就職入学者は含まない。

### (3) 大学等進学者

大学等進学者数は 22,608 人(男子 10,922 人、女子 11,686 人)で、前年度より 589 人減少(男子 472 人減、女子 117 人減)している。

大学等進学率(全卒業者数のうち大学等進学者の占める比率)は 51.7%(男子 49.5%、女子 53.9%)で、前年度より 1.2 ポイント上昇している。

### (4) 専修学校等入学者

専修学校等入学者数は 10,365 人(男子 5,079 人、女子 5,286 人)で、前年度より 672 人減少(男子 197 人減、女子 475 減)している。

専修学校等入学率(全卒業者数のうち専修学校等入学者の占める比率)は 23.7%(男子 23.0%、女子 24.4%)で、前年度より 0.3 ポイント低下している。

### (5) 就職状況

就職者総数(就職進学者及び就職入学者を含む)は 8,270 人(男子 4,945 人、女子 3,325 人)と、289 人減少(男子 228 人減、女子 61 人減)している。

就職率は、18.9%(男子 22.4%、女子 15.3%)となっており、前年度より 0.3 ポイント上昇している。

就職者総数を産業別にみると、男子では、製造業が 2,437 人(49.3%)と最も多く、次いで、建設業 534 人(10.8%)、公務 406 人(8.2%)等となっている。

一方、女子では、卸売業、小売業が 807 人(24.3%)と最も多く、次いで、製造業 766 人(23.0%)、医療、福祉 416 人(12.5%)等となっている。

就職者総数を職業別にみると、男子では、「生産工程・労務作業者」が 3,281 人 (66.3%)と最も多く、次いで、「保安職業従事者」339 人(6.9%)、「サービス職業従事者」326 人(6.6%)等となっている。

一方、女子では、「サービス職業従事者」が 849 人(25.5%)と最も多く、次いで、「事務従事者」741 人(22.3%)、「販売従事者」686 人(20.6%)等となっている。

県外への就職者は 1,770 人で就職者の 21.4%を占めており、前年度より 0.7 ポイント上昇している。

図9 高等学校卒業者の産業別就職者比率(男女別)

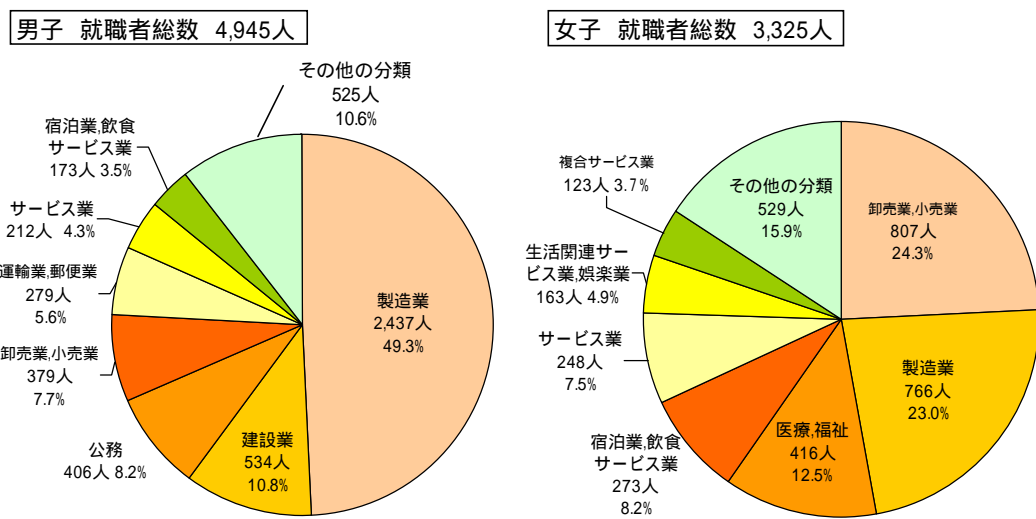
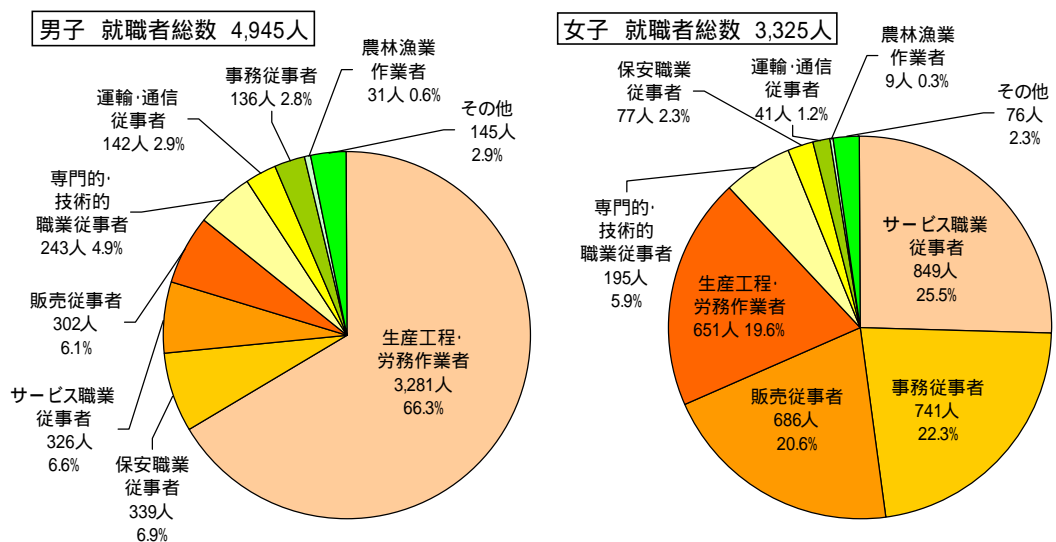


図10 高等学校卒業者の職業別就職者比率(男女別)



b 通信制課程

(1) 卒業生数

平成 19 年度間の高等学校(通信制課程)の卒業生数は 983 人(男子 478 人、女子 505 人)で、前年度間より 73 人減少している。

(2) 卒業生の進路

卒業生を進路別にみると、大学等進学者 121 人(卒業生数の 12.3%)、専修学校等入学者 184 人(同 18.7%、うち公共職業能力開発施設等入学者 5 人)、就職者 141 人(同 14.3%)、その他の者 541 人(同 55.0%)となっている。

表 17 進路別卒業生数(高等学校通信制課程)の推移

(単位:人、%)

区分	卒業生数 A	大学等 進学者 B	専修学校等 入学者 C	うち公共職業 能力開発施設 等入学者 D	就職者 E	その他 の者 F	就職進学者・ 就職入学者 G	大学等 進学率 H	就職率 I
平成10年度	1,307	99	301	...	635	272	-	7.6	48.6
15	1,013	134	200	2	196	519	36	13.2	19.3
16	1,228	137	232	2	215	662	18	11.2	17.5
17	1,150	136	216	2	181	617	-	11.8	15.7
18	1,277	154	285	5	237	601	-	12.1	18.6
19	1,056	180	215	9	155	508	2	17.0	14.7
20	983	121	184	5	141	541	4	12.3	14.3

注) 区分計上年度の前年度末の状況。

$$A = B + C + E + F - G, H = B / A \times 100, I = E / A \times 100$$

G: B 及び C のうち就職している者

12 中等教育学校前期課程修了後の状況(平成 20 年 3 月の修了者)

(1) 修了者数

平成 20 年 3 月の中等教育学校前期課程修了者数は 102 人(男子 39 人、女子 63 人)となっている。

(2) 修了者の進路

修了者を進路別にみると、高等学校等進学者 102 人(うち中等教育学校後期課程進学者 100 人)となっている。



## 14 地域別の状況等

### (1) 4地域別小学校児童数・中学校生徒数の推移

福岡、北九州、筑後及び筑豊の4地域別の小学校児童数及び中学校生徒数について、15年前の平成5年度を100とした指数により5年ごとの推移をみると、平成20年度では、いずれも約60～80前後に減少している。

最も大きく減少した地域は、小中学校ともに筑豊地域で、小学校62.9、中学校58.8となっている。一方、減少が最も小さい地域は、小中学校ともに福岡地域で、小学校86.1、中学校79.2となっている。

図11 小学校児童数(指数)の推移

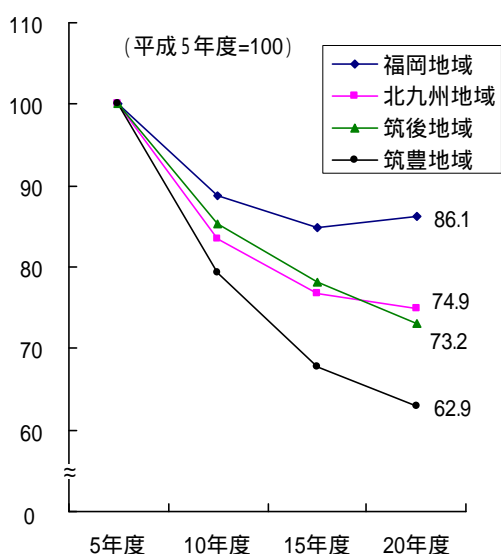


図12 中学校生徒数(指数)の推移

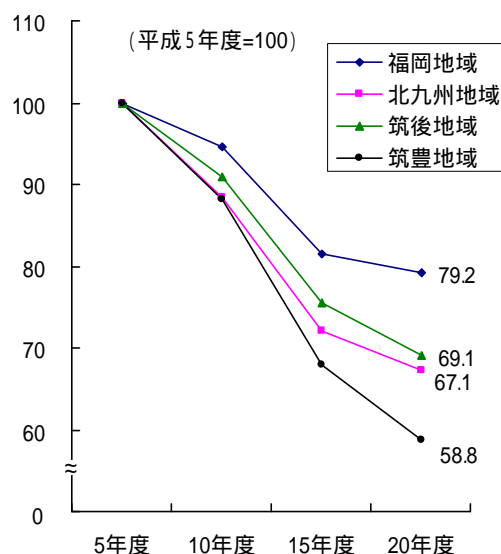


表20 広域圏別小学校児童数の推移

(単位:人)						
地域区分	5年度	10年度	15年度	20年度	増減	指数
県計	363,720	311,914	290,074	285,231	78,489	78.4
福岡地域	163,740	145,328	138,874	141,015	22,725	86.1
福岡都市圏	156,437	138,893	133,274	135,800	20,637	86.8
甘木・朝倉広域圏	7,303	6,435	5,600	5,215	2,088	71.4
北九州地域	96,033	80,166	73,784	71,942	24,091	74.9
北九州都市圏	81,085	67,674	62,470	61,043	20,042	75.3
京築広域圏	14,948	12,492	11,314	10,899	4,049	72.9
筑後地域	67,115	57,191	52,424	49,099	18,016	73.2
久留米広域圏	35,503	30,690	29,272	28,345	7,158	79.8
有明広域圏	20,323	16,719	14,184	12,527	7,796	61.6
八女・筑後広域圏	11,289	9,782	8,968	8,227	3,062	72.9
筑豊地域	36,832	29,229	24,992	23,175	13,657	62.9
飯塚広域圏	15,627	12,354	10,704	9,969	5,658	63.8
田川広域圏	11,753	9,405	8,069	7,418	4,335	63.1
直方・鞍手広域圏	9,452	7,470	6,219	5,788	3,664	61.2

注)「増減」は、平成5年度と平成20年度の比較。「指数」は、平成5年度を100とした平成20年度の指数。

表 21 広域圏別中学校生徒数の推移

(単位:人)

地域区分	5年度	10年度	15年度	20年度	増減	指数
県計	199,930	183,104	152,716	143,925	56,005	72.0
福岡地域	88,374	83,689	71,990	69,991	18,383	79.2
福岡都市圏	84,322	80,012	68,903	67,392	16,930	79.9
甘木・朝倉広域圏	4,052	3,677	3,087	2,599	1,453	64.1
北九州地域	54,151	47,806	38,971	36,350	17,801	67.1
北九州都市圏	45,956	40,342	32,857	30,800	15,156	67.0
京築広域圏	8,195	7,464	6,114	5,550	2,645	67.7
筑後地域	37,081	33,685	27,972	25,626	11,455	69.1
久留米広域圏	19,620	17,773	15,058	14,398	5,222	73.4
有明広域圏	11,441	10,243	8,122	6,838	4,603	59.8
八女・筑後広域圏	6,020	5,669	4,792	4,390	1,630	72.9
筑豊地域	20,324	17,924	13,783	11,958	8,366	58.8
飯塚広域圏	8,718	7,606	5,877	5,196	3,522	59.6
田川広域圏	6,330	5,689	4,408	3,731	2,599	58.9
直方・鞍手広域圏	5,276	4,629	3,498	3,031	2,245	57.4

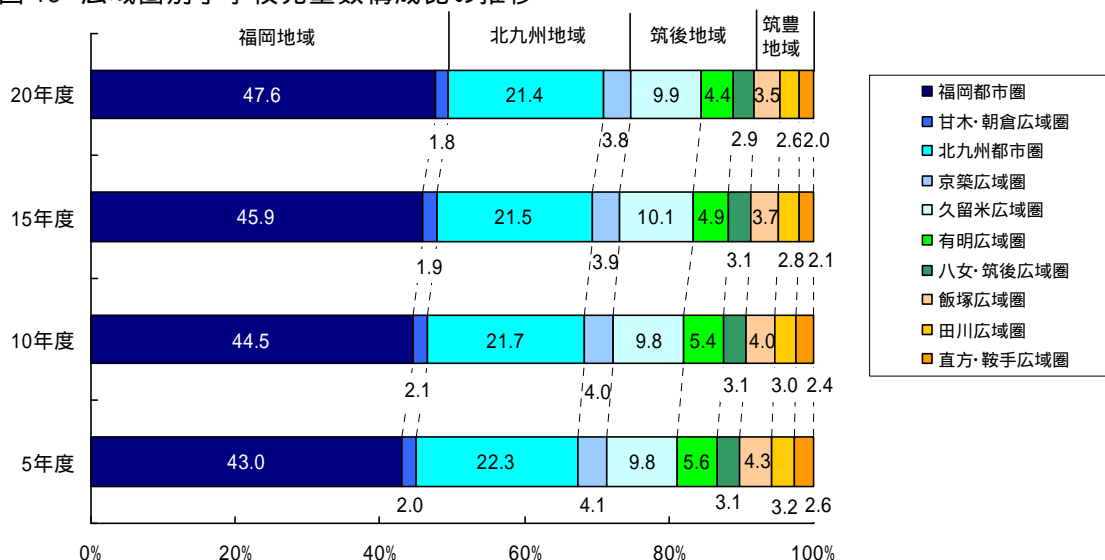
注)「増減」は、平成5年度と平成20年度の比較。「指数」は、平成5年度を100とした平成20年度の指数。

(2) 広域圏別小学校児童数構成比の推移

4地域別を細区分して10広域圏別に小学校児童数の構成比の推移をみると、増加した広域圏は、福岡都市圏(平成5年度43.0% 平成20年度47.6%)及び久留米広域圏(同9.8% 同9.9%)となっている。

一方、他の8広域圏は減少しており、有明広域圏では、5.6%から4.4%に減少し、減少幅が最も大きくなっている。

図 13 広域圏別小学校児童数構成比の推移

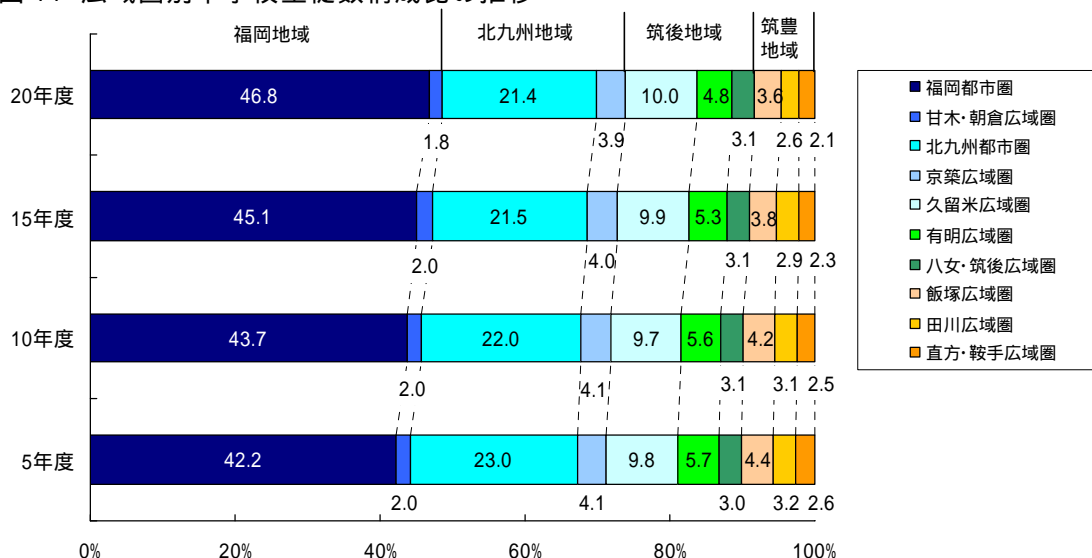


### (3) 広域圏別中学校生徒数構成比の推移

同じく10広域圏別に中学校生徒数の構成比の推移をみると、増加した広域圏は、福岡都市圏(平成5年度42.2% 平成20年度46.8%)、久留米広域圏(同9.8% 同10.0%)、八女・筑後広域圏(平成5年度3.0% 平成20年度3.1%)となっている。

一方、他の7広域圏は減少しており、北九州都市圏では、23.0%から21.4%に減少し、減少幅が最も大きくなっている。

図14 広域圏別中学校生徒数構成比の推移



### 4地域及び10広域圏に含まれる市郡名

4地域	10広域圏	市郡名
福岡地域	福岡都市圏	福岡市、筑紫野市、春日市、大野城市、宗像市、太宰府市、前原市、古賀市、福津市、筑紫郡、糟屋郡、糸島郡
	甘木・朝倉広域圏	朝倉市、朝倉郡
北九州地域	北九州都市圏	北九州市、中間市、遠賀郡
	京築広域圏	行橋市、豊前市、京都郡、築上郡
筑後地域	久留米広域圏	久留米市、大川市、小郡市、うきは市、三井郡、三潁郡
	有明広域圏	大牟田市、柳川市、みやま市
	八女・筑後広域圏	八女市、筑後市、八女郡
筑豊地域	飯塚広域圏	飯塚市、嘉麻市、嘉穂郡
	田川広域圏	田川市、田川郡
	直方・鞍手広域圏	直方市、宮若市、鞍手郡